

調査の意味と 仕組みを考える

調査を始める前に、これから行おうとしている生きもの調査がどのような意味を持ち、どのようなことを調べたらよいかを考えてみましょう。

また、生きもの調査を1年間を通して続けていくための仕組みについても考えてみましょう。

● 田園の自然と生きものは地域の財産

田園の自然はこれからの人と自然の共存の仕方を学ぶ重要な場所になります。かつての姿を再生した場所では、地域の自然や文化の成り立ちや歴史を、地域の子もたちや都市の人たちに伝えることができます。そうした農村には都市の人たちが多く遊びにくるので地域おこしにつながります。田園の自然と生きものは地域の財産なのです。

田園の自然は、このようにその地域本来の自然や生きもの、地域の文化（農業や遊びも含まれます）と一体のものとして存在しますので、田園自然の再生を行うときは、それらを一体のものとして扱わなければなりません。そのためには生きもの調査は必要で、生きものと地域の自然、地域の文化とのかかわりも調査する必要があるのです。



● 調査が楽しく継続できる仕組みを考えよう

生きもの調査は1年間を通して根気よく行う必要があります。そこで調査を楽しみながら継続できる仕組みを考えましょう。

生きもの調査を「田んぼの学校」の行事のなかに組み込むのも一つの方法です。調査をカリキュラムのなかの一つとして行えるので、年間のスケジュールを立てやすくなります。それぞれの時期に行える生きもの調査法や記録法、その時の生きもの生態、さらにはそれらの生きもの保全を目的とした環境計画の立て方などについて学ぶことができますので、「田んぼの学校」を稲作体験型のものから総合学習型へ発展させることができます。

調査が継続されると、それにあわせて田園自然再生活動も進行することになりますので、その調査は再生活動の成果を計るモニタリングの役割を持ちます。だから調査を楽しみながら継続できる仕組みは、調査と田園自然再生活動が同時並行的にできる仕組みをつくることになるのです。



「田んぼの学校」とは

「田んぼの学校」支援センター（社団法人 農村環境整備センター内）
URL： <http://www.acres.or.jp/tanbo>

「田んぼの学校」は、古くから農業の営みの中で形づくられてきた田んぼや水路、ため池、里山などを遊びと学びの場として活用する環境教育です。子どもたちにとっては、のびのび遊びながら学ぶことで、むらの自然や生活にふれ、豊かな感性を育むことになり、また大人たちにとっても、子どもと共に遊び学ぶことで、自然への感性を取り戻すことができます。「田んぼの学校」の取組みは、地域を元気づけ、老若男女や都市農村のさまざまな交流を促進し、魅力ある農村環境づくりに一役買うことができます。

